

巻頭言

地下空間利用の原点

今田 徹



わが国の大都市では、住宅、オフィスビルなどの開発が先行し、都市施設の整備が常に後手に回り、都市機能は常に不足の状態にある。都市機能の不足のみではなく、わが国の町並みを見ると雑然とし、欧米と比べることもなく、何とかならないものかと考えさせられてしまう。国の政策目標としても都市再生が掲げられている。都市再生というキャッチコピーは一般に素直に受け入れられ、もて囃されるほど現在の都市は色々な問題を抱えていると見る事が出来よう。

一方、「大深度地下の使用に関する特別措置法」が制定され地下空間利用の道が大きく開かれたことや首都高速道路新宿線工事、東京外郭放水路工事あるいは東京外郭環状道路の西側部分の地下化が検討されるなど、大規模な地下工事が進められあるいは計画されていることなどから、地下空間工事が脚光を浴びるようになって来ている。

これは現在の都市が直面している都市機能の不足を解決するためには地下空間が大きな役割を果たすことを示すと共に公共工事が減少傾向にある中であって今後の有力な工事分野として期待されていることを示している。都市再開発という流れの中であって地下空間利用はその主役としての役割を担うことになる。

今後、地下空間をどのように利用するかによって都市の品格と云うべきものが決まって行くことになるであろう。

地下空間の利用は、都市のあるべき姿を考えることなしに論ずることは出来ない。地表と地下とは一体であり、地下だけを切り離して考えるのは不適切である。どういう姿勢で地下を使っていくのかを明確にする必要がある。単に、地表に空間がないからといってそれを地下に求めるのは単純すぎる。地下は現在その多くが使われていないが都市を形成する貴重な空間である。現在の地上で顕在化しているような問題を地下に拡げてはならない。

都市は都市としての機能、利便性を備えると共に人

が活動し住むための良好な環境を備えておくことが必要である。都市の密度は高い方が便利であり、エネルギー消費の少ない社会を構築できる。しかし、環境は悪くなりがちである。都市の利便性と良好な都市環境の確保はトレードオフの関係にある。地下空間の利用はこの関係の中でどのように調和を図る手段として役立てることが出来るかという視点で検討されなければならない。

しかし、現状の都市を考えれば、地下空間は都市の安全性、快適性、環境、景観確保という点で利用すべきであり、地下空間を利用することによって良好な地表空間の創造につなげて行くことが必要であろう。緑ゆたかなオープンスペースを求めるのは極めて自然である。都市に不足している機能を付加するという単なる足し算の議論ではなく、保有すべき機能を論ずることも重要である。

都市は常に変化し、技術も進歩変化すると共に新たな問題も発生する。また、最近では、資源を大量に消費する都市の問題は単に都市問題としてだけでなく地球環境に与える視点からの検討も必要になっている。最近顕在化してきたヒートアイランド現象は熱源供給や廃熱回収システムの大規模な整備を考える必要性を示すものであり、一方でエネルギー供給は分散型に変化する傾向を示している。

地下空間の利用の形態もまた時代の変化と共に変わっていく可能性を考えておかなければならない。地下空間は改築が難しい空間であることを考えると、地下空間における施設の配置は将来の変化に対応できるものとしておくことが必要である。地下空間の利用は都市としての地下空間の位置付けと利用方針を明確にすると共に時代の変化に対応できるように計画しておくことが必要である。